

保父会ニュース 1990/6/13

VOL.3 発行 北海道の子どもと保父の会

講師を招いての勉強会 盛況のうちに終わる！

第一回の勉強会は「声と言葉」をテーマに話していただきました。俳優研究所でたくさん俳優を育てた中で重要な事は、「誰かに習ったという『痕跡』を残さない様に教える」という事です。それは教えるという事が、単に技術だけを伝えるところか、価値観を押し付ける事ではなく、その人が自分で考えていく下地（きっかけ）を作る事だからなのです。学んでいく過程でいかに考え、成長していけるか、これは子どもの保育についても当てはまる部分だと言えます。

言葉も単なる記号としてとらえるのではなく、気持ちを伝えるものとして考える事が大切です。子どもは大人には無意味な部分（ちんぷんかんぷんコトバ）を話して理解し合う時期があります。それは、声の調子や表情で気持ちを伝えていくからなのです。言葉の形にとらわれず、気持ちをこめて話す事が大切です。

日本語は五十音で構成されていて自然の音で出来ています。そしてそれぞれにイメージがあります。例えば、あいうえおは優しい音、かきくけこは金属的な音、はひふへほは笑う音など。保育者が絵本を読む時など、そういう言葉や、文の中味のイメージを膨らませながら読む。一字一字を丁寧に子どもに聴かせてあげる事が大切です。

ひとりひとりの個性を大事に、結果よりもそこまで過程を大切に考える方など、保育の世界と演劇の世界は共通するところがたくさんあり楽しい勉強会でした。ちんぷんかんぷんコトバの実践やリラックスへの集中などのレッスンを交えながらこれから隔月で行っていきます。多数の皆さんの参加を待っています（次回は七月二十一日です）。

全国男保連事務局
大西勲さんより
「ニュース」第一号の
感想が寄せられました。

北海道の集まり、そしてニュースの第一号、素晴らしいですね。活動の素晴らしさがニュースを読んで行くにつれ伝わっていきます。発行にあたって、総会報告から、この会がどんなにしっかり活動しているか、今後着実にしていけるか、よくわかります。船戸君の物語期待します。出来たらなるべく長く長く続けてもらいたい。大泉君のような内容の企画も続けてもらえたらと思います。

大阪や沖縄でもニュースを作っているそうで、大阪のは送ってもらいました。是非例会の際にでもご覧下さい。

「風に吹かれて」 保父授業物語、
その3

第二はとポツポ保育園

船戸 敬悦

保父として自立していくためには資格は、必要不可欠であった。しかし、全国的にそうだが大阪の場合もご多分に漏れず、かなり厳しい競争率の難関中の難関であった。私の場合、不合格の原因は・・・実技であった！自分自身「やっぱりな・・・」と思った。大卒を卒業してから始めたピアノは、やっとバイエルを終わったばかり。歌は小学校の頃から大の苦手！つまり私の場合小さな頃から野山を駆け回って遊んだ自然児で、学校時代のクラブ活動はずーっと体育系、ピアノを弾く姿などは全く想像できなかったのだ。今にして思えば、もっと小さな頃からピアノや歌、もっと熱心にかけておけば！しかし、それはもう後の祭りだった。

そんなある日、友達からベートーベンの第九交響曲をフェスティバルホールで歌ってみないか？と誘われた。冗談じゃネエー！今俺は試験に落ちてこれからどうしようかと悩んでいるのに合唱団なんか！！

しかし、友達の誠意と「第九はベートーベンの障害を乗り越えながら悩み苦しんで創った、最後の歓喜の歌だ！」と聞いて心を動かされたのだった。

「やってみよう」その日から昼は保育園での保育をし、夜は青色に輝く大阪城を横目に、さっせと中の島公会堂でのレッスに通う毎日が続いた。しかし、このレッスンがすごかった。コールユーブンゲン、ソルフェージュは基礎の基礎だった。パートはバリトン！・・・皆すごい声だ。流れるようにうたっている。そして何よりうたうことが本当に楽しそうなのである。「腹式呼吸を大切に！腹の底から声をだすんや！」ボイストレーニングは厳し

かった。トレーナーは関西二期会の専門家だった。「ここや、ここから声を出すんや」と腹と背中部分を手で押さえてもらっただけで音域が広がっていくのが不思議だった。私の心の中で「学ぶものがたくさんあるな」と思っていた。

(次号に続く)



当別原野にて

船山 利洋

札幌を抜け、国道二七五号線を道なりに小一時間も行くと「中小屋」という所につく（ここは温泉としても有名である）見渡すかぎり、田畑である。木々の緑も色鮮やかになんとも言えない自然の豊かな所である。その一角にデーンと腰を据えているのが、我が施設「雪の聖母園」である。精神薄弱児・者の為のホームとして名高いカトリック系の施設である。

ここにもう十年にもなるうか、一人の若者（？）が住みついている。実は私のことである。子ども達（園生）の純粹さに引かれ、最初は二三年のつもりが、ついつい長居をしてしまうはめになる……。

勤め始めて二三年は、無我夢中に仕事の流れを捕らえていくのに精一杯であった。多少慣れてきて、“フツ”と力が抜けた時「精薄」ということが

何なのか、色々と考えることになる。人としての原点がここにあるのではな
いか、そう思えてくる。そうすると、
今度は自分が恐くなる。「先生」と言
われることにふるえを覚える。無知と
無能とで、この子らを振りまわしては
いないか。それからあらゆる本を読み
あさる。少しでも精薄という言葉を
目・耳にするとむしゃぶりつく……。そ
んな時期をすぎる……。そうして今は、
開き直っている。

春から夏にかけては、農作業に精を
出し、秋には、その収穫を皆で分かち
合い、冬には除雪で一日を追われ
る……。そんなのんきな毎日が心を
豊かにしてくれる。自然に根差して生
きる喜びを与えてくれる。この子らに
は不思議な力がありそうだ。教育では
なく、共育だと、共に生きること、共
に育つこと、それこそが本質だと、そ
う、論じてくれるように思える。

私自身、これからのようになって
いけばよいのか、それは、まだわから

ないが、少なくとももう少し、この施
設でこの子らと共に生きていけたらいい
と思う所も……。ある。

【仮称・ループの会】低視力障害者友
の会】なるものを作ろうとしています。
是非ご協力のほどを……。訳あって、
身体障害者手帳の交付を受けました。
それで色々調べていくうちに弱視な
どの人間の集まる所が無く、話しを交
わす場もないとのことで、こうしたも
のを作る決心をしました。視覚障害だ
けにとらわれず、誰でも気軽に参加で
きる会にしたいと思っています。興味
のある方ならどなたでも連絡下さい。
また、周りの方にも、お伝え下さい。
こんな会があるぞーと、どうぞよろし
くお願いします。

連絡先ー仮称・ループの会

代表・船山

住所ー石狩郡当別町字樺戸通7639-106

電話ー01332-22886

交流会報告

去る五月二十六日（月曜日）に大阪・名古屋の男性保育士六人と札幌のメンバー五人の交流会が行われました。

一次会ではラムシヤブや焼き肉、そしてアイヌネギ（北海道名物？）などをほおばりながら、大阪弁・名古屋弁・北海道弁が交じり合った自己紹介を中心に話しが盛り上がりました。それから、しばしスキノ見物（次に行く店がすぐに決まらなかったため）後、二次会は小田氏推奨の店「ラウンジ乾」で大いにカラオケまくり、楽しいひとときを過ごしました。

今度は全道の男性保育者が一堂に会して大宴会をやりたいものですね。

お知らせ

六月の例会ですが、第三土曜日六月十六日から、都合により急遽、その前日六月十五日（金）六時三十分よりと変更になりました。お知らせが遅くなつてしまいました。お知らせが遅くようお願いいたします。場所は、変わらず道庁別館二階、第一又は第二会議室です。

よかったね

以前、静内ベビールームを退職し、しばらく他の業種の仕事をしていた、千葉 政幸さんが、この四月より静内児童療育相談センター（静内町海岸町一丁目四一海岸町生活館）で、仕事を始めました。力量のある人材が福祉の世界に復帰したことは、たいへん嬉しいことですね。今度、みんなで再就職祝いでもしましょう。

事務局より

第一号からお願いしてはいますが、いまだ仮称のままの、この「ニユース」。誰が良い名はないですかー!?

また、感想、イチャモン、創作、漫画、実践記録、随想、詩、イラストなど、なんでもいいから、送ってくださいー! ささやかな、あなたの投稿が、ニユースの原動力なのだ。

会計からのお願い

平成二年度になり、早三ヶ月目になりました。が、いまだ平成元年度分の会費（三千元）を、未納の方がおり困っています。お心当たりの方は、今すぐ「北洋銀行

北海道の子どもと
保父の会会計 瀬尾昌彦」まで電送してください（シユワッチ）。平成二年度分もよろしく!